

避妊手術について



避妊手術の目的

- ①望まない妊娠、発情の回避
- ②卵巣・子宮の病気の回避（重症の子宮蓄膿症では緊急手術が必要です）
- ③乳腺腫瘍の予防（3回目発情を迎える前の避妊）
- ④発情ストレスの軽減

自然な状態とは？

避妊手術のご相談の際に「余計な手を加えず、自然な状態で飼いたい」と希望される方が少なからずいらっしゃいます。「病気でもないのに手術なんて、かわいそうだ」と。では、本来の犬や猫の生態とはどのようなものでしょうか？通常、生後半年から1年で初回発情をむかえ、交尾、出産します。それからまた半年で次の発情がきて、交尾、出産と繰り返します。人間と暮らすことで交尾が妨げられ、発情のみを繰り返すことは自然な状態ではありません。このような不自然な発情の反復が、子宮蓄膿症など重大な病気の原因となることが多いのです。

避妊手術は人間とペット、双方にメリットがあります。



避妊手術のデメリット

- ①全身麻酔のリスク（年齢、健康状態により変化します）
- ②太りやすくなる（食事量の管理で対処できます）

そのほかにも避妊手術による問題がおこることも稀にありますが、メリットの方が大きいと思われれます。



避妊適齢期

『手術を受けるペットが元気で、食欲があるとき』
『生後6カ月程度』

生後2～3ヶ月でも避妊手術はできます。しかし、卵巣も子宮も発育に不必要な器官ではないので、現在のところ当院では6カ月程度からとしています。一方で、高齢になるほど麻酔のリスクは高まりますが、術前検査と術中の十分なケアを行えば中年期以降でも手術は可能です。（別途料金がかかります）